

赤穂市立有年考古館令和6年度企画展

ほかほか
ごはんの
考古学

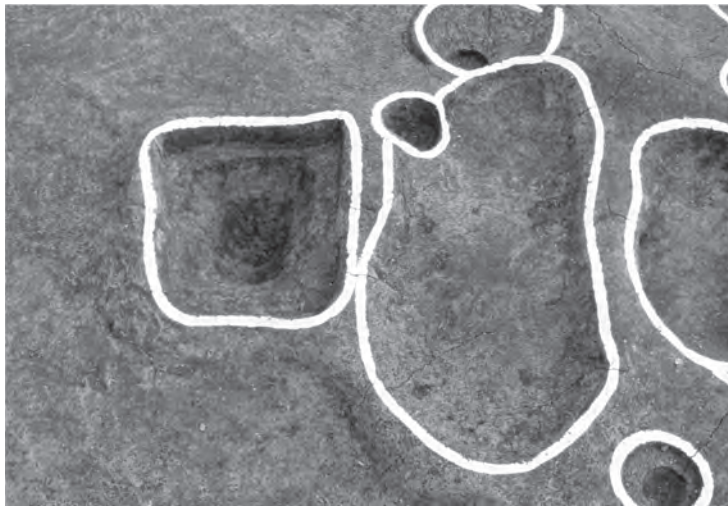
—土器からみた炊飯の歴史—

展示会期 7月10日(水) ~ 9月2日(月)





古墳時代のカマド跡（東有年・沖田遺跡）



弥生時代の炉跡（東有年・沖田遺跡）



弥生土器のレプリカを使った実験炊飯

令和6年度企画展

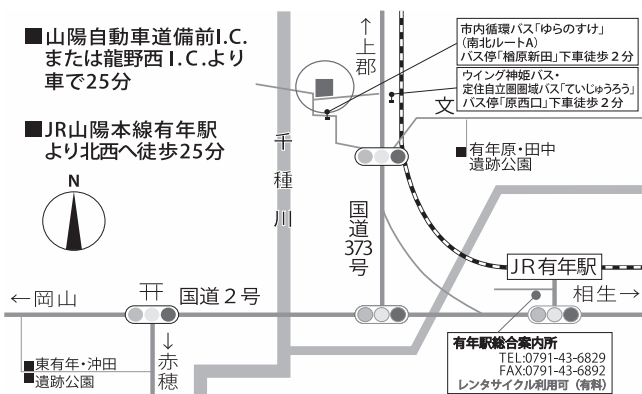
ほかほか ごはんの 考古学

—土器からみた炊飯の歴史—

現代のわたしたちの食卓に欠かせない「ごはん」。コメは、縄文時代の終わりには日本列島に伝わり、弥生時代には水田が広く普及したことで、日本列島での主食となりました。しかし、実はその食べ方・炊き方の歴史については、多くが謎に包まれています。

近年、出土した土器に付いたスヤやコゲなどの研究により、縄文時代から現代まで日本列島の人々がどのようにコメを食べてきたのか、「ごはん」の歴史が明らかにされつつあります。

今回の展示では、そうした最新の研究成果を紹介しながら、市内の遺跡から出土した土器や遺構からもわかる「ごはん」の食べ方・炊き方の歴史について紹介します。



〒678-1181 兵庫県赤穂市有年檜原1164番地1

TEL・FAX 0791-49-3488

入館無料

■休館日■ 火曜日 ※火曜日が祝日と重なる場合は次の平日
年末年始（12月28日～1月4日）

■開館時間■ 午前10時～午後4時（入館は午後3時30分まで）

■Webサイト■ 「赤穂市立有年考古館」で検索！